

教科教育研修課の研究

〔 研究 主 題 〕

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究

1 研究主題の基本的な考え方

【思考力・判断力・表現力を育成する重要性】

知識基盤社会などへの対応

各調査結果から明らかになった課題への対応



【学習指導要領】(学力の3要素のバランスの取れた育成を重視)

基礎的・基本的な知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力の育成

主体的な学習態度の向上



各学校での取組「言語活動の充実」

思考・判断したり，表現したりする機会の増加

主体的に学ぶ態度の向上



【本研究のねらい】

児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成について，学習評価を通じて学習指導の在り方を見直し，その改善を図る。

2 実態調査から得られた研究の方向性 (県内小・中・高等学校・特別支援学校への質問紙調査，平成23年10月実施)

【言語活動について】

半数以上の学校で言語活動に取り組んでいるが，活動の質的な向上が課題である。

【「思考・判断・表現」の評価について】

「思考・判断・表現」の評価を難しいと感じている割合が多い。
目標に達したかを判断する基準が明確でない。



【研究の方向性】

教科の特性を踏まえ，評価規準に基づいて判断の基準を設定する必要がある。

基準を満たす手立てを工夫するなど，指導と評価の一体化を図ることが必要である。

3 「判断基準」の設定による評価の明確化

(1) 「判断基準」の考え方

ア 「判断基準」とは

- ・ 「判断基準」とは、評価規準で設定された児童生徒の「思考・判断・表現」の学習状況を、より分析的に表した「判断の要素」を具体化した尺度である。
- ・ 児童生徒の思考・判断の過程やその結果としての表現を、質的、量的な面からよりよく評価することができる。

イ 「判断基準」の設定

- ・ 「判断基準」においては、児童生徒の状況を考慮し、判断基準Bと判断基準Aを設定する。
- ・ 判断基準Bは、評価規準を分析的に表した判断の各要素を、「おおむね満足できる」具体的な状況で表したものである。
- ・ 判断基準Aは、判断基準Bに照らして、その程度を超えたと認められる状況を表したものである。

(2) 「判断基準」の設定の実際（「児童生徒が考えたことを発表する」活動を想定した場合）

- ・ 評価規準に基づき、「発表内容」「発表内容の構成」「発表の方法」などを「判断の要素」と設定する。
- ・ これらに対応する判断基準Bについては、「テーマに基づいた視点の有無」「意見とその根拠や例示などの有無」「グラフなどの情報の提示の有無」等が考えられる。
- ・ 判断基準Bの設定においては、児童生徒の実態と適合させるため、予想される児童生徒の表現例等も併記し、信頼性を高めることが必要である。

(例) 言語活動：「児童生徒が考えたことを発表する」

評価規準を分析的に表した判断の要素	対応する判断基準B	予想される児童生徒の表現例
「発表内容」	「テーマに基づいた視点の有無」	○○について、発表します。 私は、○○については・・・と 考えます。その理由は、・・・ だからです。このグラフを 見てください。・・・
「発表内容の構成」	「意見とその根拠や例示などの有無」	
「発表の方法」	「グラフなどの情報の提示の有無」	

実態に適合させる

- ・ 指導者が児童生徒の目標の達成状況を見て、更なる指導を行う場合の学習状況の程度及び、その他の「おおむね満足できる」学習状況以上であると認められるものを判断基準Aとする。「十分満足できる」児童生徒の姿は、多岐にわたることが想定されるため固定的には捉えず、児童生徒の学習状況を見て判断することも必要である。

4 「判断基準」の設定による授業づくり

(1) 教科の特性に基づく「思考・判断・表現」の評価と指導

- ・ 「判断基準」は、言語活動に至るまでの指導を充実させるための重要なポイントとして捉えることも大切である。
- ・ 教材研究時に、評価規準を分析的に表した「判断の要素」から「判断基準」や「予想される表現例」をあらかじめ設定することで、指導と評価の一体化を図ることができると考えられる。
- ・ 判断基準Bを設定することで、児童生徒が思考・判断及び表現する活動において、ねらいに到達させる手立てを具体的に用意することができる。
- ・ 「判断基準」による指導と評価の単元への位置付けは、教科や題材により異なることから、指導者が適切に判断することが必要である。

ア 国語科の例

- ・ 国語科では、単元を貫く言語活動が重視されており、単元終末に最も思考力・判断力・表現力が発揮される場合が多い。
- ・ 判断基準Bを基にして計画的・段階的に指導する必要がある。この場合、予想される児童生徒の表現例は、単元の学習が集約された形で表される。

単元を貫く言語活動(国語)の例		指導上の留意点 【評価規準(評価方法)】
時	主な学習活動	
1	が最も思考力・判断力・表現力が発揮される時間に評価	【国語への関心・意欲・態度①(観察)】
2		【読む能力①(行動の観察)】
3		【言語についての知識・理解・技能①(記述の分析)】
4		【読む能力②(記述の分析)】
5		【読む能力②(行動の観察)】
6		【読む能力②(記述の分析)】
7		【読む能力③(作品の分析)】
8		【国語への関心・意欲・態度①(観察)】

判断基準B

単元を見通した指導
計画的・段階的な指導

↓

判断基準Bを
満たした状況

イ 算数科の例

- ・ 算数科では、「数学的な考え方」をどのように評価するのかを検討し、単元の指導計画に位置付ける。そこで思考・判断したことや数学的に表現したことを基に、その後の教科内容の深まりを確かなものにする。
- ・ 「数学的な考え方」は、「技能」や「知識・理解」の定着とともに、数学的に思考・判断し、表現する力も相乗的に伸びていくと考えられる。
- ・ この場合、当該時間の指導や見取りだけではなく、単元を通して児童生徒の伸びを見ていくことが必要である。

数学的な考え方(算数)の例					
時	主な学習活動	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1	4本の直線で四角形を作る。	進んで作ろうとする。			
2	仲間分け、理由付けをする。		基準になる性質を見付けることができる。	思考・判断、表現しながら、数学的な考え方に気づき、理解する時間	
3	台形について知る。			作図することができる。	
4					

判断基準B

これまでの学習、経験、数学的表現

↓

判断基準Bを
満たした状況

↓

技能 知識・理解
の定着

「数学的考え方」の
更なる指導

(2) 「判断基準」による見取りと指導

- ・ 評価を指導に生かすには，児童生徒の学習状況を見取り，その状況に応じて必要な指導を加えていくことが大切である。

ア B 状況を満たさない児童生徒への補充指導の考え方

- ・ 「努力を要する」と判断される児童生徒への補充指導については，判断基準Bのそれぞれに照らして，児童生徒自らが，十分でない点に気付くよう指導を行う必要がある。
- ・ この「気付き」を促す指導は，判断基準Bを満たすための手立てを用いて，再度児童生徒に働き掛ける指導や児童生徒の個別の達成度に応じて柔軟に行う指導が考えられる。

イ B 状況の児童生徒への深化指導の考え方

- ・ 「おおむね満足できる」と判断される児童生徒への深化指導についても，判断基準Aとして，あらかじめ想定しておくことが大切である。
- ・ 授業における目標は達成していることから，課題解決の多様な方法に気付かせたり，思考・判断が質的に深まるよう「新たな視点」を提示したりすることなどが考えられる。
- ・ 児童生徒の発言，論述及び作品等から「新たな視点」を導き出し提示することも有効な指導法であると考えられる。

(3) 「判断基準」による指導と評価

「判断基準」に照らした指導や評価の流れを以下に示す。

思考力・判断力・表現力を育成する指導例	関連する評価の例
<p>【判断基準に基づく指導】 判断基準Bのそれぞれを満たすための手立てなど</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">必要な知識・技能の確認，定着</p> <p>【思考・判断し表現する学習活動】 (言語活動等) 単元において適切に設定した時期に行う学習活動</p> <p>【補充・深化指導】 補充指導…「気付き」の促し 深化指導…「新たな視点」の提示</p>	<p>【判断基準に基づく評価】 主として全児童生徒がB状況を満たすよう適切に指導を行うための評価</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">日常の授業の中で適宜行われる評価 発問と応答，話合いの観察，小テスト，学習記録，ワークシート 等</p> <p>【「思考・判断・表現」の評価】 思考力・判断力・表現力が身に付いた姿 (判断基準Bの全て＝評価規準)による評価</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">記述したもの(レポート，ワークシート) テスト(筆記，実技) 等</p>

5 成果と課題

- < 成果 >
- 思考力・判断力・表現力を育成する確かな指導の考え方が明確になった。
 - 「思考・判断・表現」の評価を適切に行う考え方を示すことができた。
 - 評価結果を指導に生かす考え方を示すことができた。
- < 課題 >
- 思考力・判断力・表現力の系統的な指導の在り方について研究を進める必要がある。
 - 評価規準や「判断基準」の妥当性を高める取組を進める必要がある。

【平成24年度調査研究発表会】
全体会研究発表

＜平成23・24年度＞
思考力・判断力・表現力を
育成する指導と評価に関する研究

鹿児島県総合教育センター

1

発表内容

I 研究の基本的な考え方

II 「判断基準」の設定による評価の明確化

III 「判断基準」の設定による授業づくり

IV 成果と課題

2

I 研究の基本的な考え方

3

思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

- 知識基盤社会、グローバル化などへの対応
- 各調査結果から明らかになった課題への対応

学習指導要領

知識・技能の習得
思考力・判断力・表現力等の育成

言語活動の充実

■ 各教科等の目標達成に有効に働く

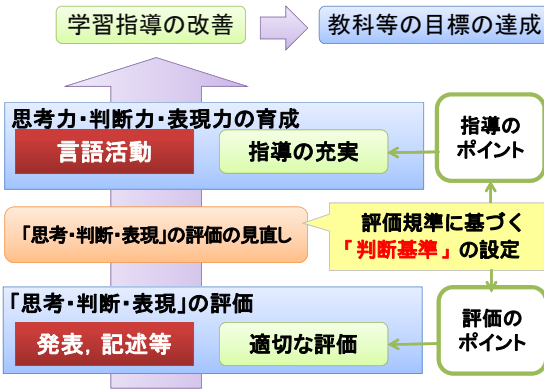
■ 思考力・判断力・表現力の育成につながる

言語活動の充実の捉え【社会・地歴・公民科】

地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視すること。

4

本研究のイメージ



5

学力の3要素と「思考・判断・表現」の評価

【学力の3要素】

基礎的・基本的な知識・技能

課題を解決するために必要な
思考力・判断力・表現力等

主体的に学習に取り組む態度

【学習評価の4観点】

知識・理解 技能

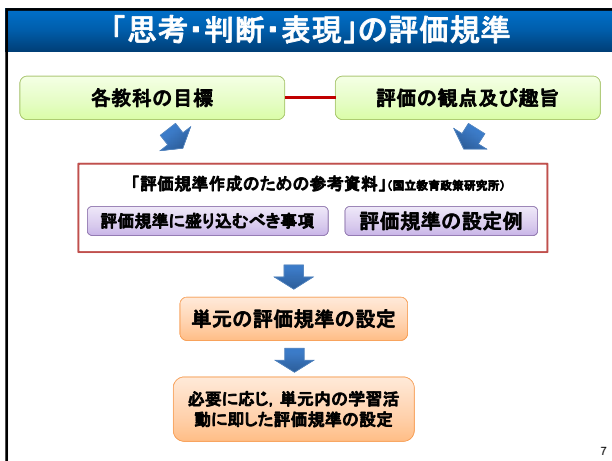
思考・判断・表現

関心・意欲・態度

児童生徒の学習評価について(報告) 平成22年3月
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

円滑に実施できているとは
感じていない割合が高い

6



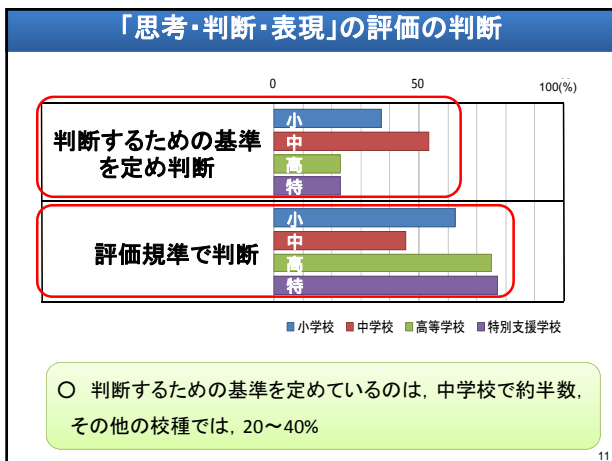
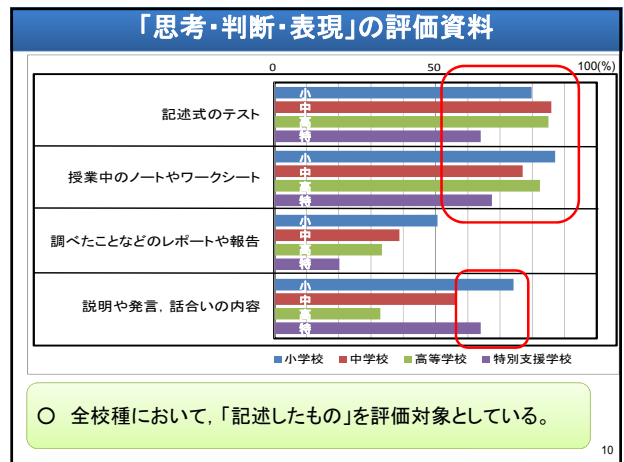
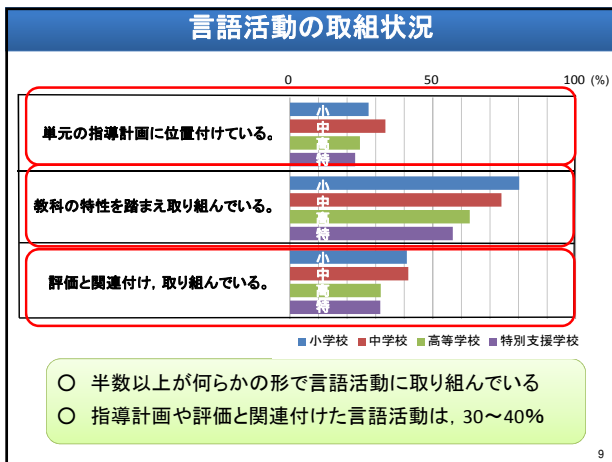
県内各学校の実態調査

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する調査

- 県内全公立小・中・高等学校・特別支援学校
- 調査期間 平成23年10月21日～11月8日

調査項目

- 1 言語活動の取組状況
- 2 「思考・判断・表現」を見取る評価資料
- 3 「思考・判断・表現」の評価の判断



課題と研究の方向性

言語活動について

- 半数以上の学校で言語活動に取り組んでいるが、活動の質的向上が課題である。

「思考・判断・表現」の評価について

- 「思考・判断・表現」の評価を難しいと感じている割合が多い。
- 目標に到達したかを判断する基準が明確でない。

研究の方向性

- 評価規準に基づいて判断する基準を明らかにする。
- 基準を満たす手立てなど、指導の改善を図る。

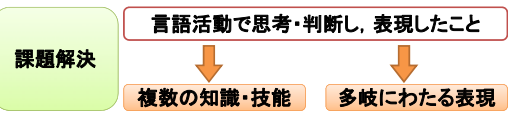
II 「判断基準」の設定による評価の明確化

13

「思考・判断・表現」の評価と指導

- 課題**
- △ 言語活動の質的向上をどのように図ればよいのか。
 - △ 思考・判断し、表現したことをどう評価すればよいのか。

「思考・判断・表現」の評価



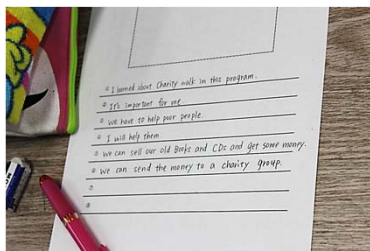
本研究 評価規準を基に評価と指導のよりどころを明確にする。

判断基準

14

「判断基準」の考え方

評価規準 (中学校3年英語の例)
本文の内容について要点を適切に聞き取り、文化による挨拶などの違いについて、既習の表現を用いて自分の考えや感想を書くことができる。



生徒の書いた感想

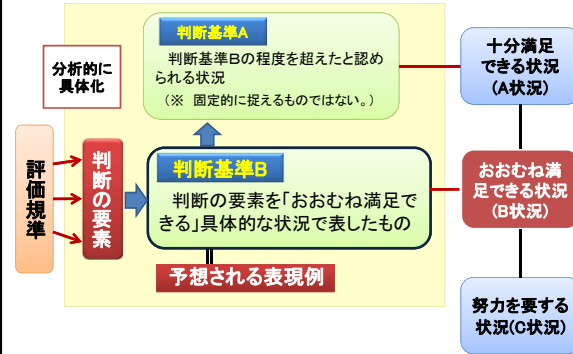
どのような内容か。
どのような表現か。



15

「思考・判断・表現」の判断基準の設定

「思考・判断・表現」の評価 ~ 言語活動を通じて

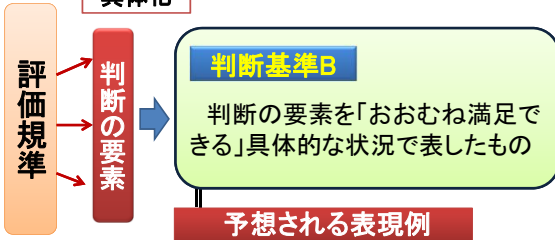


16

「思考・判断・表現」の判断基準の設定

「思考・判断・表現」の評価

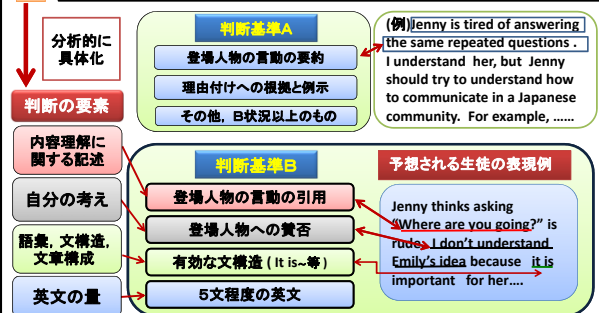
分析的に
具体化



17

「判断基準」の例

評価規準 (中学校3年英語の例)
本文の内容について要点を適切に聞き取り、文化による挨拶などの違いについて、既習の表現を用いて自分の考えや感想を書くことができる。



18

Ⅲ 「判断基準」の設定による授業づくり

19

「判断基準」による指導

思考・判断し、表現させる指導



教科や題材の特性を考慮する。

20

「判断基準」による指導

単元を貫く言語活動(国語)の例 中学校2年「短歌を味わおう」

短歌に込められている情景や心情、表現技法を踏まえて、鑑賞文を書く活動

思考・判断し、表現する活動

判断基準B

- 設定された時・場・人の 解釈
- キーワードを挙げた解釈
- 表現技法の効果を踏まえた解釈
- 適切な語句や文末表現等を使った表現

予想される生徒の表現例

この短歌は、冬の屋外で、恋人同士か仲の良い友達同士が会話している様子を詠んでいるのだろう。「寒いね。」と気軽な感じで話しかけていること、…(後略)

21

「判断基準」による指導

単元を貫く言語活動(国語)の例

時	主な学習活動	指導上の留意点 【評価規準(評価方法)】
1	最も思考力・判断力・表現力が発揮される時間に評価	【国語への関心・意欲・態度①(観察)】
2		【読む能力①(行動の観察)】
3		【言語についての知識・理解・技能①(記述の分析)】
4		【読む能力②(記述の分析)】
5		【読む能力②(行動の観察)】
6		【読む能力②(記述の分析)】
7		【読む能力③(作品の分析)】
8		【国語への関心・意欲・態度①(観察)】

判断基準B

- 〇 単元を見通した指導
- 〇 段階的な指導

判断基準Bを満たした状況

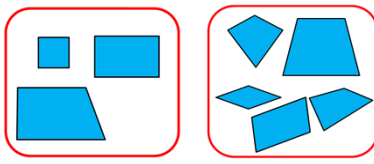
22

「判断基準」による指導

数学的な考え方(算数)の例 小学校4年「いろいろな四角形」

四角形の仲間分け

思考・判断、表現しながら、数学的な考え方に気づき、理解する活動



- 同じ図形の仲間を囲んで説明
- 言葉を変えたり、図形を指し示したりして説明

判断基準B

- 長さの等しい辺による仲間分け
- 直角による仲間分け
- 平行線による仲間分け

数学的な表現
(言葉、図形、記号 など)

23

「判断基準」による指導

数学的な考え方(算数)の例

時	主な学習活動	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1	4本の直線で四角形を作る。	進んで作ろうとする。			
2	仲間分け、理由付けをする。		基準になる性質を見付けることができる。	思考・判断、表現しながら、数学的な考え方に気づき、理解する時間	
3	台形について知る。			作図することができる。	
4	⋮				

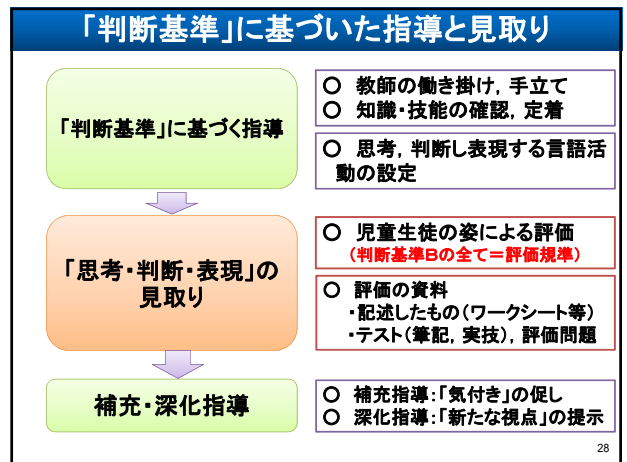
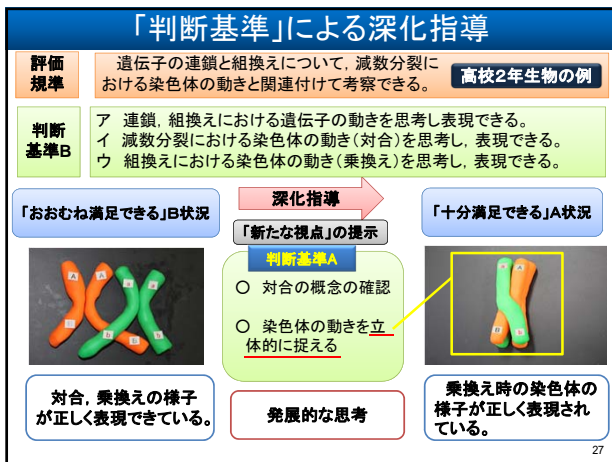
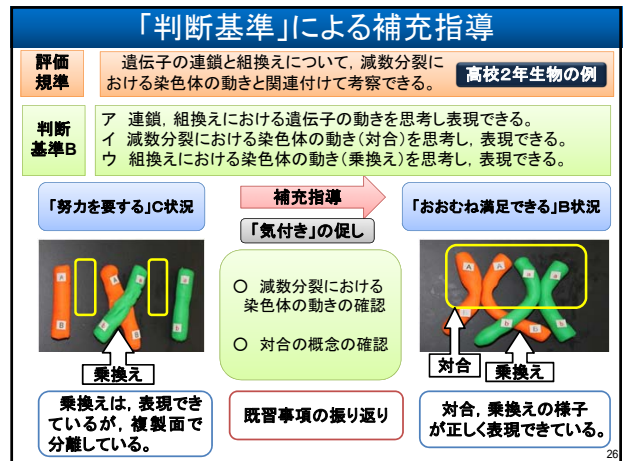
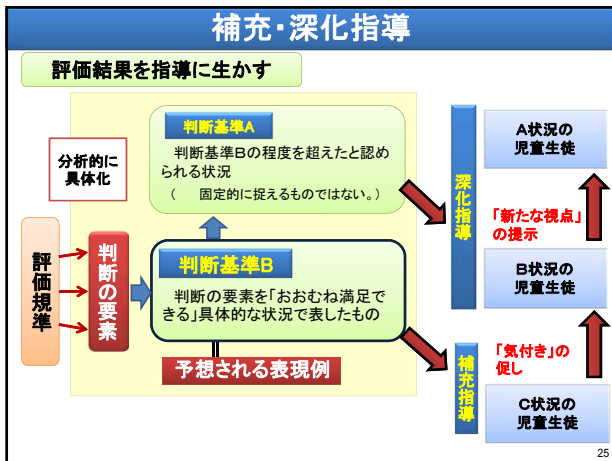
これまでの学習、経験、数学的表現

判断基準Bを満たした状況

技能 知識・理解の定着

「数学的考え方」の更なる指導

24



IV 成果と課題

29

- ### 成果と課題
- 成果**
- 思考力・判断力・表現力を育成する確かな指導の考え方が明確になった。
 - 「思考・判断・表現」の評価を適切に行う考え方を示すことができた。
 - 評価結果を指導に生かす考え方を示すことができた。
- 課題**
- △ 思考力・判断力・表現力育成の系統的な指導の在り方について研究を進める必要がある。
 - △ 評価規準や「判断基準」の妥当性を高める取組を進める必要がある。
- 30